

## 自校室

## 5年評価計画

④

単元、活動	Check Your Steps 1 外国の人自己紹介をしよう					
領域	話すこと【発表】	資質・能力	思考・判断・表現			
実施時期	Unit 1~3 終了後の Check Your Steps 1					
ねらい	初対面の人に伝えたい内容（自分の名前、好きなもの・こと、欲しいもの、誕生日等）を含めて自己紹介スピーチをすることができる。					
指導と評価の一体化に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>Unit 1に入る前に、Can-do リストで Unit 3 終了後に総括的評価を行うことを確認する。</li> <li>Unit 1~3 のそれぞれにおいて、目標言語材料の習得を図り、各 Unit では、それまでの Unit で学習した言語材料と合わせて自己紹介することができるよう、徐々に自己紹介の内容の充実を図るよう大単元として構成する。</li> </ul> <p>例) Unit 1: 自分の名前の言い方（綴りを含めて）、好きなもの・ことの伝え方      Unit 2: 誕生日とほしいものの言い方      Unit 3: 学習したい教科となりたい職業の言い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Unit 1に入る前に、自己紹介する相手（ALT等）から、どのような情報が知りたいのか（Unit 1~3 の学習内容）について共有する。</li> <li>Unit 2 と 3 の単元終了後の Enjoy Communication では、その単元で学習した言語材料だけでなく、前の Unit で学習した言語材料も活用し、Check Your Steps 1 までに徐々に自己紹介の内容を充実させることができるように指導を心掛ける。</li> <li>黒板上には、名前（つづり）、好きなもの・こと、誕生日、欲しいもの、勉強したい教科、なりたい職業といったカードを貼付するなどし、練習段階においては、何について発表するのかについて参考させるなどし、Check Your Steps 1 の総括的評価の際には、何も見ずに発表できるよう支援する。</li> <li>各 Unit の Let's Listen や Let's Try, Let's Watch and Think, Let's Sing, Let's Chant 等において、発表の際に用いる言語材料が繰り返し使用されていることに気付かせ、発音を真似たり、登場人物になり切って自己紹介したりする活動を行い、Check Your Steps 1 における総括的評価で自信をもって発表できるよう指導と評価の一体化を図る</li> </ul>					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>Unit 1~3 の各 Enjoy Communication と内容的にも形式的にも類似な発表を行う。          ※ 基本的に、Unit 1~3 の Step 3 では、やり取り形式で、名刺交換、バースデーカードの受け渡し等が行われているが、Check Your Steps 1 における総括的評価では、発表形式で行うので、そのことを児童と継続的に共有する必要がある。</li> <li>発表例</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>C1: Hello. My name is Ken Tanaka. K-E-N, Ken. I like soccer. My birthday is May 5<sup>th</sup>. I want a soccer ball. ... T: What subject do you want to study? C1: Ah... I want to study P.E. I want to be a soccer player. Nice to meet you.</td> <td>① ② ③ ⑤ ⑥ ⑦</td> <td>発表内容を忘れても、教師の質問で再開することができたら、減点は無し。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童を一人一人呼び、公平性を確保するために、別室や区切られた教室の後ろのスペース等で面接を行い、別のクラスの担任等の協力を得て、ほかの児童には This is our future town のカードを作成させておく。</li> <li>教科書 Unit 1~3 の Enjoy Communication で学習した形式で発表できているかを評価する。          ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦          「名前（つづり）」、「好きなもの・こと」、「誕生日」、「欲しいもの」、「勉強したい教科」、「なりたい職業」の 6 つの情報について         <ul style="list-style-type: none"> <li>発表内容を忘れても、教師による英語での質問（“When is your birthday?” や “What do you want to study?” 等の補助）が 1 回あれば、多少つまつても、すべての情報をほぼ問題なく伝えることができる。... a (とても満足できる状況)</li> <li>発表内容を忘れても、教師による英語での質問（『a』同様の補助）が 2 回程度あれば、多少つまつたり、英文ではなく語句等で説明したりしていても最後まで上記の情報すべて発表できる。... b (おおむね満足できる状況)</li> <li>発表内容を忘了際、教師の補助があつても、上記の内容について、単語等でも伝えることができない、また、名前を最後に述べるなど不自然な順番等で、相手に分かりやすく自己紹介することができない。... c (努力を要する状況)</li> </ul> <p>* 児童の実態に応じて、名前（つづり）、好きなもの・こと、誕生日、欲しいもの、勉強したい教科、なりたい職業のカードを黒板上に貼付しながら自己紹介を行うことも考えられる。</p> </li> </ul>			C1: Hello. My name is Ken Tanaka. K-E-N, Ken. I like soccer. My birthday is May 5 <sup>th</sup> . I want a soccer ball. ... T: What subject do you want to study? C1: Ah... I want to study P.E. I want to be a soccer player. Nice to meet you.	① ② ③ ⑤ ⑥ ⑦	発表内容を忘れても、教師の質問で再開することができたら、減点は無し。
C1: Hello. My name is Ken Tanaka. K-E-N, Ken. I like soccer. My birthday is May 5 <sup>th</sup> . I want a soccer ball. ... T: What subject do you want to study? C1: Ah... I want to study P.E. I want to be a soccer player. Nice to meet you.	① ② ③ ⑤ ⑥ ⑦	発表内容を忘れても、教師の質問で再開することができたら、減点は無し。				

①名前  
②つづり  
③好きなもの・こと  
④誕生日  
⑤勉強したい教科  
⑥なりたい職業  
⑦の5つを  
言えるように  
する

a... 6つ～7つ言える      b... 5つは言える      c... 4つ以下

単元、活動	Unit 2, Let's Try 2		
領域	話すこと [やり取り]	資質・能力	知識・技能
実施時期	単元の終末 (Enjoy Communication の直前)		
ねらい	互いの日常生活について、簡単なやり取りをし、相手の情報を表に記入することができる。		
指導と評価の一体化に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元に入る前に、Can-do リストを基に、総括的評価を行うことを確認する。</li> <li>○ Let's Try 2 の言語材料や出題形式に慣れさせる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テストにおいても、同様の内容、形式で行うことを伝え、評価基準について共有する。</li> <li>・ 自分の「ふだんすること」を別紙1に記入した上で、単元を通して、ペアで普段することについて尋ね合い、表に情報を記入する活動を行う。知り得た情報を基に、Who Am I? ゲームなどを行っても面白い。また、表に記入させる際、多くの情報が出すぎないように、Picture Book (p7 「スポーツ」, p18 「動作など (1)」, p19 「動作など (2)」, p20 「一日の生活」, p27 「遊びなど」) から関連の絵をコピーしておき、絵を切り抜いて貼らせると情報が発散しすぎず、児童同士の活動においてコミュニケーションが成立しやすくなる。また、単元を通して、これらのカードを示し、読み方と意味を確認するとよい。</li> <li>・ 形成的な評価の見取りから、「努力を要する」状況の児童に対し、「曜日」「普段すること」等のどの表現の言い表し方が分からぬのかを明らかにし、単元を通して何度もその言語材料に触れられるようにする。</li> <li>・ 黒板上には、拡大コピーした表を貼り、どの曜日についての情報を得る必要があるのかを理解した上で、どのように相手に尋ね、どのように情報を表に書き入れるのか等、一連のやり取りと回答の記入方法について、視覚的な支援を通して理解を促す。</li> <li>・ 「主体的に学習に取り組む態度」として、様々な相手と普段することについてやり取りを行うことを通して、できたこととできなかったことについて自己分析させ、単元を通じて粘り強く取り組ませるよう声がけする。</li> <li>・ 対話の最初には、「Excuse me?」「Yes?」「Hello.」などと、終わりには、「Thank you.」「You're welcome.」という挨拶をし、対話を始められるようにする。</li> <li>・ 聞き手は、相手の回答を受け、内容を確認するために、「Oh, you usually play soccer on Saturdays.」のように主語を I から You に替えて発話するとよいことを伝える。</li> <li>・ 対話の形式に慣れてきたら、「I usually play soccer on Saturdays. It is very exciting.」のように感想を付け加えられるようアドバイスする。</li> </ul> </li> </ul>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Let's Try 2 と内容的にも形式的にも類似なスピーキングテスト 教師と1対1で行う。その間他の児童は Enjoy Communication の宝物紹介カードを作成したり、Let's Read and Write の Unit 2 「わたしのせりふ」に必要な単語を記入させたりする。 ※ 担任がスピーキングテストを行っている間は、他の教師に全体指導を依頼するなど、協力して運営することが望ましい。</li> <li>○ テストの対話例</li> </ul> <p>机上には児童が記入できる表 (別紙2) を置いておく。    T: Hello, C1 san. How are you?    C1: I'm fine.    T: OK. Let's start the test. What do you do on Saturdays?    C1: I usually play soccer on Saturdays. It is exciting.    T: I see. You usually play soccer on Saturdays. Nice! Please ask me a question.    C1: (表の「土曜日」の欄が空欄であることを確認し) What do you usually do on Saturdays?    T: I usually read on Saturdays. I like books.    C1: (「土曜日」に『読書』と記述する) You usually read on Saturdays. I like books, too.    T: Thank you very much. 次の人を呼んでください。    ※ 下線部については、無くても減点対象とならない。</p>		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童を一人一人呼び、公平性を確保するために、別室や区切られた教室の後ろのスペース等で面接を行う。</li> <li>○ 単元を通じて「曜日」と「ふだんすること」が記されている表を用いる。「ふだんすること」が記入されていない「曜日」(1か所)について評価する。 児童の実態に応じて、「ふだんすること」が記入されていない箇所を複数設けておいて、その内から、1か所だけ選択し、教師に質問する形式も考えられるが、以下は、記入されていない「曜日」が1か所だけの場合を想定して、評価規準を示す。 「曜日」と「ふだんすること」の2つの情報について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「曜日」を正しい単語を用いて、正しい英文で質問し、教師の回答も正しく聞き取れている .....a (とても満足できる状況)</li> <li>・ 「曜日」を正しい単語を用いて、正しい英文で質問しているが、教師の回答の聞き取りにやや不満が残る。例) 「サッカーをする」を「サッカー観戦」と記述するなど .....b (おおむね満足できる状況)</li> <li>・ 「曜日」を正しい単語で伝えられない、また、教師の回答の聞き取りについても大いに不満が残る .....c (努力を要する状況)</li> </ul> </li> </ul>		

a: b a 内容 + usually, always, sometimes を使い分けることができる。

b: 土曜日のふだんすることについて、教師の質問に答える。かつ教師に尋ねるところができる。